

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0790400428		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターいわき小名浜(かつお)		
所在地	福島県いわき市小名浜岡小名字仏玄前3-1		
自己評価作成日	平成25年5月30日	評価結果市町村受理日	平成25年7月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>毎月の職員研修を通して、職員のスキルアップに努めており、サービスの質の向上に役立っている。定期的に歌や音楽等の、ボランティアを依頼し実施していただくことで、地域との交流を図っている。また、地域住民へも積極的に参加を呼びかけている</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年6月24日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>1 法人では職員研修を計画的に実施しており、職員の資格取得等の支援制度もあり、職員の勤労意欲の向上につながっている。また、職員も各自目標を設定(チャレンジシートを活用)し、その実現に向け自己研鑽に努めている。 2 職員同士の連携がスムーズに図られており、全職員が利用者本位のケアに努めている。職員の笑顔と生き生きした行動に利用者の表情も明るく和やかな雰囲気のある事業所である。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼・夕礼で、ホーム理念の唱和をし、全職員で共有している	運営理念では「尊厳と自立を」、ホーム理念では「安全・安心して暮らせるよう地域と共に支援する」ことをうたっており、朝夕のミーティングで唱和し全職員が意識を共有して、日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、町内の清掃活動等へ積極的に参加している。また、ホーム便りを回覧していただき、地域住民への理解を求めている。地域のボランティアを依頼し、地域とのつながりを確保している	地域の行事(地区の清掃活動や地域の防災訓練への参加等)へ積極的に参加し連携している。事業所の行事には高校生のじゃんがら踊りや琴の演奏等も受け入れている。また、中学生の職場体験は恒例となっている。地域のボランティアも多く受け入れ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りへ随時相談援助受け付けていることを記載し、町内へ回覧して頂いている 定期定期に地域の中学生の体験学習を受け入れ、グループホームの存在と役割を理解していただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、報告・相談しながらサービスの質の向上に努めている	運営推進会議は定期的開催されており、内容は事業所の行事や取り組み状況を報告している。委員からの意見や提言はあるが、事業所として検討された結果や経過の報告がされていない。	会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解を得るための貴重な機会であるので、委員は民生委員・福祉関係・防災関係者等各分野から広く選任されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題があれば支店を通じ協力を得たり、電話相談等を随時行っている	利用者の相談等について市の担当者に連絡している。また、事業所を統括する支店を経由して、運営状況等を報告しており、市の担当者との協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや外部での研修資料等を基に職員研修を開催し、身体拘束のないケアに日々取り組んでいる 各自での注意はもちろん、職員間でも注意しあえる環境づくりを行っている	研修会を通して、身体拘束の弊害を全職員が認識しており、拘束のないケアに取り組んでいる。「言葉の拘束」についても職員同士で注意し合いケアに努めている。日中玄関の施錠は無くセンサーや職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を中心に職員研修を開催し、虐待のないケアに日々取り組んでいる。 各自での注意はもちろん、職員間でも注意しあえる環境づくりを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見人制度を活用されているが、必要であれば情報提供が行えるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読みあわせを行いながら一つ一つ理解と納得が得られるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者とは話し合う機会を設け、意見・要望を聴き、職員間での話し合い、運営に反映されるよう努めている	家族の面会時や状況報告の折に家族の意見や要望を聞き取り、出された意見等は業務ミーティング等で検討し、運営に反映させている。家族会も結成されており、意見聴取の機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議や日常の業務内で職員一人ひとりの意見・考えを述べやすい環境づくりを行い、運営に反映させている 必要に応じて面談も実施している	事業所では職員面談を実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また日常の業務ミーティング等を利用し職員の意見や要望を把握し、事業所運営に反映させている。内容によっては法人に報告し、法人全体で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内のスキルアップ制度があり、各自が向上心を持って業務に就けるよう環境が整っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修を案内を随時実施し、参加を呼びかけると共に、参加希望者へはシフトを調整する等を行い、各自がスキルアップできるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入しており、研修や会議に参加することで情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人の話を聴く機会を設け、安心してサービスを受けられるよう努めている。また、入居後も同様にご本人と話し合う機会を多く設け、信頼関係が早期に築けるよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受け付けた時点でご家族の困りごとを傾聴し、不安が軽減されるよう助言を行い、安心してサービスを受けられるよう努めている。また、入居後も同様に報告・相談・連絡することで、信頼関係が構築できるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け付けた際は、適切に説明・助言できるよう努め、随時サービスの提供を行っている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場に立って物事を考え、意思を尊重しながらサービスの提供ができる様努めている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族と一緒に過ごせるよう環境を整えたり、行事開催時はご家族へ参加を呼びかけ、本人・家族との絆が継続できるよう努めている。また、日々の生活様子についても随時報告してる			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が保てるよう、ご家族の協力を得ながら外出・外泊の支援を行い、関係が途切れないよう努めている	なじみの商店での買い物や理美容院の利用は家族の協力を得ながら支援している。利用者の友人の訪問もあり、なじみの関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格・交友関係等を把握し、孤立しないよう利用者同士の関係作りのお手伝いを行っている。また、各ユニットの利用者が交流できる場を提供し一人ひとりが孤立しないよう環境を整えている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じてご家族からの相談に応じられるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通じて表情や言動から本人の思いをくみ取り、把握できるよう努めている。また、相手の立場に立って検討し、思いを把握できるよう努めている	意向の把握にはセンター方式を活用している。日常のケアの中で些細な会話や仕草から利用者の意向や希望をくみ取るようにしている。特に散歩や入浴時の会話には全職員が気を配っている。意思疎通が困難な利用者は家族を通して意向確認を行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方・馴染みの暮らし方等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録やセンター方式を随時活用することで、心身の状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の更新時、心身の状態変化に合わせアセスメント・担当者会議を実施し、本人が抱えている問題・ご家族の要望・スタッフの提案を反映し、現状に即した介護計画書を作成している	利用者の現状把握を十分行い、利用者本位の介護計画を作成している。また、日々のかかわりの中で利用者の変化を見逃さずに記録し検討会議等で話し合い、利用者の現状に即した介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録や、センター方式を記載していくことで、情報の共有を図り、実践・介護計画書に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院等の必要な支援を実施している。また、自費ヘルパーの利用等の情報提供も随時行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族・知人の協力を得ながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の要望に応じ、月1~2回、提携医による往診や他医療機関への受診等ご本人に適した診療が受けられるよう支援している	かかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族対応を基本としているが利用者の状態によっては職員が対応することもある。協力医療機関から月2回の往診もあり、利用者は適切な医療が受けられる体制となっている。受診結果は家族と事業所で互いの報告により共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を構築しており、1回/週健康チェックを実施していただきながら、相談し助言を頂き、適切な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族・医療機関と情報共有を図りながら、早期に退院ができる様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針を説明し、本事業所が出来ることへの理解していただけるよう努めている	「重度化した場合における対応にかかる指針」を策定しており、利用時に利用者、家族に十分説明し同意を得ている。重度化した場合には家族、医師及び関係者等で話し合い、家族の希望にそって柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや、定期的に消防署員指導の下、介護職員が出来る初期対応訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/月避難訓練を実施し、緊急時実践できるよう努めている	事業所では防災訓練は年間計画し実施しており、消防署立会いの訓練も実施している。利用者2人に1個の防災グッズを備えている。また、災害時の備品、食料等も備蓄している。	全職員が利用者を安全に適切に避難誘導できるように避難訓練を重ねられることが望まれる。特に2階からの避難誘導については全職員が体得できるよう取り組んでほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや個人情報保護等に配慮した声かけ対応を行っている。	利用者個々の思いや性格等を考慮し、尊厳を損ねない対応に配慮している。トイレや入浴の誘導時には耳元で静かに話すなど職員間でも気を付けて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表現できるよう、環境を整えたり、選択肢を準備することで、自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを崩さないよう配慮し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活のおしゃれ・散髪等が実施できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事摂取中の様子や会話から、嗜好の確認や摂取量の確認・把握を行い、委員会が中心となり献立を検討している。また、利用者のIADLを考慮し一緒にできるよう支援している	献立は職員が利用者の希望を聞きながら作成し、法人の管理栄養士の指導のもと進めている。食材は配食サービスを利用しているが、利用者は料理の準備や後片付け等楽しみながら職員と一緒にしている。季節ごとの行事食(正月・ひな祭り・七夕・お彼岸・誕生会等)も数多く楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取チェック表を利用し、一人ひとりの摂取量の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じて、口腔ケアを実施し、清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式(D-3)や、排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握することに努め、トイレでの排泄が出来るよう表情確認や、声かけ等を行い、自立に向け支援している	利用者ごとの「排泄チェック表」を活用し、排泄の自立を目標にトイレ誘導をしている。便秘への対応として適度な運動・朝の氷水・牛乳及び食事による改善策も実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水や牛乳の提供や、適度な運動を提供することで、自然排便を促せるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調等を考慮し、個人にあった入浴時間での支援を行っている	利用者の希望に応じて入浴できる体制となっている。入浴拒否者には担当者・誘導時刻・話題等を変えながら誘導している。週2から3回以上を目標に入浴支援をしている。入浴剤の利用やゆず湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・状況に応じて休息を促している。また、空調や光等にも配慮し安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効能・効果について都度情報の共有を図っている。また、医療機関と連携し、症状に変化等ないか、十分に様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事を開催している。また、日常生活の中で個人の能力に応じた生活リハビリを実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や近所への買い物等、本人の要望を聴きながら実施している。また、ご家族の協力を呼びかけながら、外出支援を行っている	事業所行事として花見に出かけたり、好天時には事業所周りの散歩や買物等の外出支援をしている。さらに外泊・外出等を家族の協力を得て支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からおこずかいとして金庫で預かっており、買い物時には支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方から電話があればご本人へ繋いでいる。また、要望があれば必要な支援を実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度の調整を行い、快適に生活できるよう支援している。また、季節を感じられるよう共有空間の環境を整えることで、居心地良く生活できるよう支援している	共用空間は広く明るい。畳スペースもあり、利用者が自由に好みの場所で過ごせるように配慮されている。壁には季節を感じる作品等が並べられ居心地の良いエリアとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やウッドデッキで思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの家具や装飾品を居室内へ飾り、その人らしい、落ち着いた生活が出来るような居室空間となっている	居室にはクローゼットがあり、空調機・換気扇が標準装備されている。ベットは利用者が好みのものを持ち込んでいる。和室仕様(ふとん)の利用者もいる。利用者の使い慣れた筆筒、椅子、テレビ等を持ち込み、安心して生活できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダーの利用や、場所がわかりやすいよう工夫をすることで、自立した生活が送れるよう努めている		